

評価準：【A:取り組みが理想的な状態 B:取り組みがほぼできている】
【C:取り組みに対しもう少し努力が必要 D:今後十分な努力が必要】

評価方法：【A:5 B:4 C:3 D:2】

※記入はA～Dでお願いします。

自己評価の観点		評価
1. 園の保育理念・保育方針を理解について		
①園の保育理念や保育方針を理解している。		B
2. 保育所保育指針の理解について		
①保育所保育指針を理解していると思う。		B
3. 子どもの発達援助の基本について		
①一人ひとりの子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。		A
②定期的に指導計画の評価・見直しを行いその結果を指導計画に反映している。		B
③一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標についての記録がある。		A
④それぞれの子どもに関する情報を周知している。		A
⑤一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、保育の実践について、話し合う為のケース検討を必要に応じて実施している。		B
4. 健康管理について		
①保健年間計画表に基づき子どもの健康管理を行っている。		A
②身体測定や健康診断の結果について定期的に記録し、子どもの健康状態を保護者に伝達している。		A
③乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防に努めている。		A
④感染症の予防に努め保護者にも伝達している。		A
5. 食事について		
①食育を通して子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫している。		A
②発達に応じた食事の介助を適切に行い、落ち着いた環境で楽しく食事ができるように工夫している。		B
③調理担当者と子どものコミュニケーションが図られるようにしている。		B
④個人差や食欲に応じて量を加減できるように工夫している。		A
6. 保育環境について		
①気候や子どもの活動に合わせ、温度・湿度・換気などに配慮している。		A
②園内の清掃がなされ、清潔に心地よく過ごせるように配慮している。		B
③屋内外の衛生面・安全面に配慮している。		B
④生活の場面にあった保育者の声、音楽など音に配慮している。		A
⑤植物や小動物を見たり触れたり育てたりする経験ができるように工夫している。		A
⑥園内に子どもたちが季節感を味わえるような工夫をしている。		B
⑦屋外での活動の場が確保され、子どもたちが活動しやすいように工夫している。		A

自 己 評 価 の 観 点		評 価
7-1 保育内容について（子どもへの理解と受容）		
①子どもにわかりやすい言葉づかいで、穏やかに話している。		B
②せかす言葉や制止する言葉を不必要に使わないようにしている。		B
③子どもの質問に対してよく耳を傾け、何を求めているかを理解し、適切に対応をしている。		B
7-2 保育内容について（基本的生活習慣などに関して）		
①基本的生活習慣については、一人ひとりの自主性を尊重し家庭と連携しながら子どもの状況に応じて対応している。		B
②着脱の自立に向けて年齢や個人差に応じた介助や関わり方を工夫している。		A
③安心して休息（昼寝）ができるように配慮している。		A
④トイレは、一人ひとりのリズムに合わせるようにしている。		A
7-3 保育内容について（自発的に活動できる環境作りについて）		
①子どもの発達段階に即した玩具や遊具を、質・量ともに適切に用意している。		B
②好きな遊びができる時間やコーナーを用意している。		B
7-4 保育内容について（身近な自然や社会と関わる取り組みについて）		
①身近な動植物と接する事により、命の大切さや季節感など豊かな感性を育むよう配慮している。		B
②生活や遊びを通して、数・量の感覚が身につくよう工夫している。		B
③散歩などを通して地域の方に接し挨拶や言葉を交わすなどして社会性の芽生えを工夫している。		A
7-5 保育内容について（様々な表現活動が体験できるような配慮について）		
①身体等を使った様々な表現遊びが取り入れられている。		B
②様々な素材を使って、描いたり、作ったり、表現できるように配慮されている。		A
③絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。		A
7-6 保育内容について（人間関係の育ちの関わりについて）		
①子ども同士の関係をより良くするような適切な言葉かけや働きかけをしている。		B
②年齢に応じ、順番を守る等社会的ルールを身につけていくように配慮している。		B
4.3		
①授乳は子どもが欲しがる時に目を合わせたり、微笑みかけたりしながら飲ませている。		A
②離乳食については家庭と連携を取りながら、一人ひとりの子どもの状況に配慮している。		A
③おむつ交換時は、優しく声をかけたりスキンシップをとりながら行っている。		B
④一人ひとりの生活リズムに合わせて睡眠ができるように空間が確保されている。		B
⑤外気に触れたり、戸外遊びを行う機会を設けている。		A
⑥指導計画は乳幼児の実態に即して作成している。		A
⑦保育所保育指針に基づく援助、支援を適切に行っている。		B
⑧評価結果を基に、保育の改善に努めている。		B

自 己 評 価 の 観 点		評 価
7-8 保育内容について（長時間保育について）		
①好きな事をしてくつろげる空間や遊具、玩具がある。		B
②一人ひとりの子どもの要求に応じて側にいたり、声をかける等して接している。		B
③子どもの状況について、職員間の引き継ぎを適切に行っている。		A
7-9 保育内容について（障がい児保育について）		
①保育を実施するにあたり、園全体の職員が、その子どもの障がいの状況を十分理解している。		B
②障がい児を持つ親を受容し、共に育てるという気持ちが持てるような関係をつくっている。		A
4		
①他施設との年間交流計画は保育目標や課題にそったものになっている。		
②他施設との幼児・児童生徒と触れ合うことで、幼児が楽しく過ごし充実感を味わうことができるように援助、配慮している。		
③日常的に情報を交換し、それを交流活動に活かしている。		
9.安全・衛生・危機管理について		
①避難訓練・交通安全指導を計画に基づいて実施している。		A
②緊急な場合に備えての訓練や研修が行われている。		B
③事故防止、安全管理のためのチェックリストを使い定期的に点検、確認が行われている。		A
④食中毒や感染症予防の具体的な取り組みを行っている。		A
10.守秘義務の遵守について		
①保育業務の中で知り得た子どもや家庭に関する秘密の保持について守られている。		A
②保護者や地域の人から相談事項についてプライバシーの保護・話された内容の秘密保持を徹底し守られている。		A
11.子育て支援について（保護者の育児支援について）		
①子どもの送迎時に子どもの様子を伝え合う様にしている。		B
②ルクミーや掲示板などできめ細やかに情報交換をしている。		A
③個人懇談や、必要に応じて個別懇談を行っている。		A
④入園説明会や新年度についての、保育内容や目的をわかりやすく説明し情報提供を行っている。		B
12.行事について		
①行事の種類や実施回数など適切に行っている。		A
②行事のねらいを計画や実施に十分活かしている。		B
③計画・実施・評価・改善の体制を取っている。		B
④保護者の願いや親の意見があれば、会議等で話し合い考慮している。		B

— 令和 6年度の総合的な評価・反省 —

○令和6年度は、新入児 19人を含む 全児数 84人でスタートしました。

○新入園児は未満児に多く、やっと落ち着いた頃に感染症にかかる等でお休みが続く等クラスが落ち着くまでにとても時間がかかりました。

昨年もでしたが、季節ごとの感染症が新入児中心に流行が始まり各クラスに広がっていました。

感染対策は、手洗い・消毒・喚起と続けていますが、室内の遊びに関してはお友だちとの関係が良好になれば近づいて遊ぶ事が多くなるので、なかなか流行を食い止める事は難しい現状がありました。流行が大きくならないようにする為、日々の感染対策は気を抜かないようにしていく事を全職員に通達し実践は続けていました。

○昨年の怪我が続いた現状を変えていくため今年度より体育教室を取り入れ、身体の柔軟性、機敏性を楽しく身に付けられるように3オクラスより取り組み始めました。講師の先生のキャリアや子ども達をひきつけ集中して取り組める様にする技術も高い事で、多くの子ども達が体育教室を楽しみ上達していく姿が見られ、参観や運動会でも保護者に見て頂き、いきいきと運動する姿を喜んで頂きました。その結果なのか、6年度は、怪我の件数も2件とぐっと少なくなりました。

○行事に関して

年間予定していた行事は、年長さんを中心に楽しんで経験することが出来ましたが、年末に予定していた“餅つき、は、全国的に事故が多くなっている事から、何かあってからでは遅いので取りやめる事が決まりました。

○気になる子に関して

療育や療育施設と併用して保育を行っている子ども達は、昨年の3人から5人と増えています。

また、気にはなるが保護者との懇談が進まずにいる3才児・4才児に関しては、市の巡回相談を通して現場で困っている現状を保健師さんや県立大の先生に園で過ごす姿を見て頂き、懇談を重ねて子どもとの向き合い方を一緒に考えて頂き、保育に活用することが出来るようになりました。そんな良い流れを保護者に伝えられ、1人は療育との併用を考えて頂けるようになり巡回相談をお願いして良かったと思っています。

○長期欠席だった子が

年長の園児1人が、第二子が生まれたことで2カ月程の欠席予定だったのに、あまりにも長く休み登園を嫌がるようになる。担任は保護者との連絡を欠かさず行事等のお知らせや参加の案内をしていたが